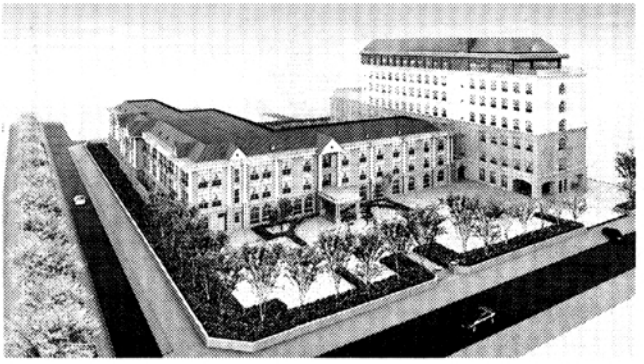
MUM 浦安の医療・福祉施設増築が起工



右側の7階建てが増築部分（左は既存の新浦安フォーラム）

病院＋介護付ホーム　富士を望むスカイデッキも

MUM（浦安市）が、介護付有料老人ホーム「舞浜倶楽部　新浦安フォーラム」に病院と介護付有料老人ホームで構成する複合施設を増築する、（仮称）医療・福祉施設増築工事の地鎮祭が3日、千葉県浦安市の建設地で開かれた。

設計・監理は伊藤喜三郎建築研究所が担当し、松井建設が施工する。2012年4月のオープンを目指す。

増築規模はRC造地下1階地上7階建て延べ7941平方㍍。1階から3階に72床の総合病院、4階から7階に79床の介護付有料老人ホームを設ける。病院は「やしの木会浦安中央病院」（浦安市）が移転し、テナントとして入居する。有料老人ホームは、舞浜倶楽部（同市）が運営。施設の老朽化が進む富士見サンヴァーロ（同市）を移転し、「新浦安サンヴァーロ」とする。7階には、富士山が見えるスカイデッキや大食堂、ラウンジ、展望風呂を設ける。

鍬入れする六井社長

鎌入れする原社長

設計・監理＝伊藤喜三郎
施　工＝松井建設

来春オープン

神事では、鎌（かま）入れを原勇次伊藤喜三郎建築研究所社長、鍬（くわ）入れを六井元一MUM社長、鋤（すき）入れを松井隆弘松井建設社長が行った。高須信美浦安中央病院院長、グスタフ・ストランデル舞浜倶楽部総支配人、向川朋宏松井建設東京支店建築第一部工事長らが玉串を捧げた。神事後の直会（なおらい）で、六井社長は「長年の夢だった医療との連携、新しい施設への転居の2大テーマで取り組んできた。無事に工事が進み、新しいわが家にお引っ越しいただきたい」とあいさつした。

鋤入れする松井社長

原社長は「安心と幸せを追求する倶楽部の理念をかたちにしようと、効率的で安全・安心な建物、倶楽部の皆さまが住むにふさわしい建物をコンセプトに設計した。中世ヨーロッパの古典建築をモチーフに3層の存在感ある建物とした。施工者とともに知恵を出し合って図面以上の良いものをつくりあげたい」と設計意図を披露。

松井社長は「既存施設を施工した時とほとんど同じメンバーで取り組む。皆さまに喜んでいただける建物を造り上げたい」と決意を述べた。

建設地は、JR京葉線・新浦安駅に近い新浦安フォーラム（浦安市高洲1―2―1）敷地1万0890平方㍍。

MUMと舞浜倶楽部は、ともに不動産会社「ダイニチ」（同市）のグループ企業。